

大阪大学大学院 文学研究科 フランス文学研究室 主催
筑波大学大学院 人文社会科学部 哲学・思想専攻 十パスカル研究会 共催

エレノ・ミシヨン 学術講演会

聖書における「空しさ」のテーマ および後代の文学作品におけるその変奏

司会・通訳 山上浩嗣 (大阪大学教授)

日時 二〇一七年二月一七日(金) 一五時から一七時半まで

場所 大阪大学豊中キャンパス 文学部本館 中庭会議室

助成 日本学術振興会 科学研究費補助金(研究課題番号15H03150)

ミシヨン氏は現在フランソワ・ラブレール大学(フランス) 上級准教授。パスカルならびにポール・ロワヤル派について、とりわけ神学・哲学と文学の結節点を、また、フランソワ・ド・サルについては、中世から近世へと至る靈性史の流れにおけるその独自性をそれぞれ解明する研究を精力的に進めている気鋭の研究者。代表作に『心情の秩序——パスカル『パンセ』における哲学、神学、そして神秘主義』(一九九六年、Honore Champion社)、『フランソワ・ド・サル——新しい神秘主義』(二〇〇八年、Cerf社)がある(いずれも未邦訳)。

二年目を迎えた科研費基盤B研究課題「中世後期から近世初期までの(メデイタチオ)に関する国際協働による哲学史的総合研究」(研究代表者・谷川多佳子)の一環として、日本ではまだ良く知られていないサルの代表作『信心生活入門』(一六〇八年)を中心に、一七世紀フランスの多くの知識人の関心を集めた「空しさ」という主題について縦横無尽に講演頂く。初来日。

講演はフランス語によるが、必要に応じて逐次通訳がつく予定。また、日本語訳を配布予定。事前予約不要かつ無料にて来聴歓迎。お問い合わせは、山上浩嗣まで電子メール(yamajo@let.osaka-u.ac.jp) まで。